

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する乳頭筋吊り上げ術を追加した僧帽弁形成術の有用性に関する多施設共同研究

[研究責任者] 心臓血管外科 江田 匡仁

[研究の背景]

心筋梗塞や狭心症に伴う僧帽弁閉鎖不全に対する外科的治療は僧帽弁置換術と形成術に二分されますが、僧帽弁の構造物事態の変性による僧帽弁閉鎖不全の際では形成術が優位されているに比し、機能性僧帽弁閉鎖不全では 2 年での予後には差がないとされています。しかし、その成因である乳頭筋の位置の変移とそれに伴う腱索の牽引に対する手術的介入の有無での検討はなされておらず、乳頭筋を吊り上げることで、人工弁置換よりもよい予後が期待できると考えられています。

[研究の目的]

全国調査に参加し、上記手術の有効性を確認する。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

虚血心に伴う僧帽弁閉鎖不全の患者さんで、西暦 2015 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日の間に僧帽弁を受けた方

●研究期間：西暦 2021 年 7 月 1 日から西暦 2024 年 12 月 31 日

●利用する検体、カルテ情報

検体：なし

カルテ情報：年齢、性別、生死、心臓血管死亡、脳血管死亡、脳梗塞、僧帽弁に対する再手術、心不全による再入院、NYHA Class の増悪、1 年後ならびに直近のエコーでの Data (LV Reverse Remodeling、左室径ならびに収縮能、中等度以上の MR の再発)

[研究組織]

この研究は、多施設での共同研究です。研究の主体は東京慈恵医科大学心臓外科学講座です。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個

人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者及び情報の提供先である東京慈恵医科大学心臓外科学講座が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

心臓血管外科 江田匡仁 湯浅毅

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913